

# 施設関係者評価の教育参観の報告について

幼保連携型認定こども園 木の川認定こども園

去る令和6年6月26日に「令和6年度施設関係者評価の教育参観」を実施いたしました。和歌山県教育委員会2名と新宮市子育て推進課1名、蓬莱保育所職員1名、三輪崎小学校2名、理事1名、評議員3名、合計10名の参加を頂きました。参加者にアンケートの記入を依頼し、下記のとおり回答をいただきましたので、ご報告させていただきます。

## ① 保育活動で良かったところはございますか？

【参加者 A】

決まったメニューをする時間は、その園の特色が分かる。その取組を続けていくことで、子どもたちができるようになる内容が分かる。活動する子どもの自然な表情が印象的だった。

【参加者 B】

音楽を使って活動するところが良い。園児が活動しやすいような環境が整備され、清潔に保たれているところが良い。子どもたちが楽しそうに活動しているところが良かった。

【参加者 C】

集中して活動して、元気よく会話も出来ている。バラバラな行動をしていない所が良い。

【参加者 D】

園児たちも一人ひとり表現できていて、笑顔で楽しくしている様子がうかがえました。

【参加者 E】

子どもがとても元気で歌や名前を言う、積極的に参加していて、とても良かったです。

【参加者 F】

おはようの時間に子ども同士で質疑応答しているところが良い。音楽を流しながら、素足で体操させているのが良かった。

【参加者 G】

今日一日の目標を子どもたちと共に立てているのが良かった。

【参加者 H】

ヨガは皆楽しそうに行っていた。

## ② 保育活動で指摘・改善すべきところはございますか？

【参加者 A】

一日のなかで決まったメニューをする時間とそうでない時間があるのだと思うが、今日の子どもクラスは、楽しんでいる様子が見られ、決まったメニューを長時間することに不安は感じなかった。ただし徐々に集中の度合いは下がった感があった。それも想定内だろう。今日は特別メニューだったのかも。

【参加者 H】

リトミックのとき、もう少し先生が笑顔で声かけがあれば、良いかなと感じました。

## ③ 英語教育で良かったところはございますか？

【参加者 A】

フラッシュカードを使った活動では、子どもが集中していて、声がよく出ていた。何をするのが子どもに分かりやすく、シンプルだった。日頃から取り組んでいるから、どの子も安定した様子だった。活動内容は小学校低学年よりもレベルが高く、濃かった。

【参加者 B】

全員が参加できるような活動を行っていたところ。絵本等を活用しているところ。日々の積み重ねが感じられました。園児に考えさせ、自分達の力で何とか英語で答えさせようとしているところ。指導者ができる限り英語を使っているところ。活動一つ一つの時間が長くないところ [が良かった。]

【参加者 C】

単語の理解が出来ていて、発音もはっきりして良かった。

【参加者 D】

英語の先生のお話を聞いて、皆で楽しく勉強出来ていた。

【参加者 E】

授業すべて英語で進行しているところが良かった。

【参加者 F】

カードを使用して視覚と発音の能力向上に努めているのが良い。ビデオを使用せず、本やカードを使用しているところが良い。

【参加者 G】

一人ひとりが発音したり、全員で発音したりする機会があり、覚えていること感じていることをしっかり発音できているのが良かった。

【参加者 H】

カード、体を動かすなど、複数組み合わせているのは、退屈しにくいと感じた。講師の西さんの表情が良かったです。

#### ④ 英語教育で指摘・改善すべきところはございますか？

【参加者 A】

今日のペースで進めていくと、ついて来れない子がいる場合もあると思った。取組みを続けていくなかで、どのような対応をしてきたのか [教えてほしい]。

【参加者 B】

常に全員で答える、発音するようにすると参加できない、していない、あるいは周りに増させているという子どもが見られる。

【参加者 H】

カードで少し退屈そうな [子もいたよう] であった。

#### ⑤ 幼児教育で良かったところはございますか？

【参加者 A】

活動内容とそれを支える人や物が整備されていると感じた。またハード、ソフト、ユースウェア等も意識されているだろう、と思われた。

【参加者 B】

フラッシュカードを活用しているところ。繰り返すということを重視しているところ。「目で見て耳で聴く」活動を行っているところ。フラッシュカードの際、チームごとに唱えさせていたところ。一人一人にそろばんを用意しているところ [が良い]

【参加者 C】

落ち着いて行動して保育士の指導に従って行動している。全員参加して行動しているのが良かった。

【参加者 D】

園児さんがのびのびと楽しく活動している。

【参加者 E】

子どもたちが楽しくしている。あまりふざけすぎていると注意しているところがよかった。

【参加者 F】

おはようの時間後に当日の目標を子どもたちに言わせて設定していることが良かった。反対語の発言や著名人の唱和が良い。日本地図も良い。皆の前に立ち発言させているのが良い。

【参加者 G】

リトミック前のヨガで、子どもたちが発していた動作の曲をリクエストに応じて取り入れている点。百玉そろばん一人ひとりにペース合わせて確認されていた。

## ⑥幼児教育で指摘・改善すべきところはございますか？

### 【参加者 B】

子どもたちに2とび、5とび、合成なども唱えさせた方が良い。一人ひとりにそろばんを持たすと時間がかかる。子どもたちに操作させる前に先生だけがリズム良く前で、行っても良いと思う。

### 【参加者 F】

[園児が] リトミックの動き「時計」でどういった動きになっているのか戸惑っている姿もあったので、職員同士(ピアノ弾く先生以外)が動きの把握をしておくことも必要だと感じた。

### 【参加者 H】

カードは音で覚えているように感じたので、ゆっくり意味も理解できるようにした方が良いと感じた。かけざんチームでするのは、できない子にとってはしんどい[ではないか]と感じた。

---

# 令和6年度 第1回 施設関係者評価の教育参観

木の川認定こども園 令和6年6月26日(水)

幼保連携型認定こども園の木の川認定こども園では、施設関係者の教育参観(年2回)を実施し、評価指導を行い、改善を重ねて教育の質の向上を得ること目的として「施設関係者評価の教育参観」を開催いたします。また、幼小連携・接続の取り組みとして、こども園の活動を参観していただき、小学校に就学予定の子どもたちの状態を把握していただくことを趣旨とします。教育指導計画書を作成しておりますので、教育活動をご覧頂き、コメント・評価をお願いいたします。

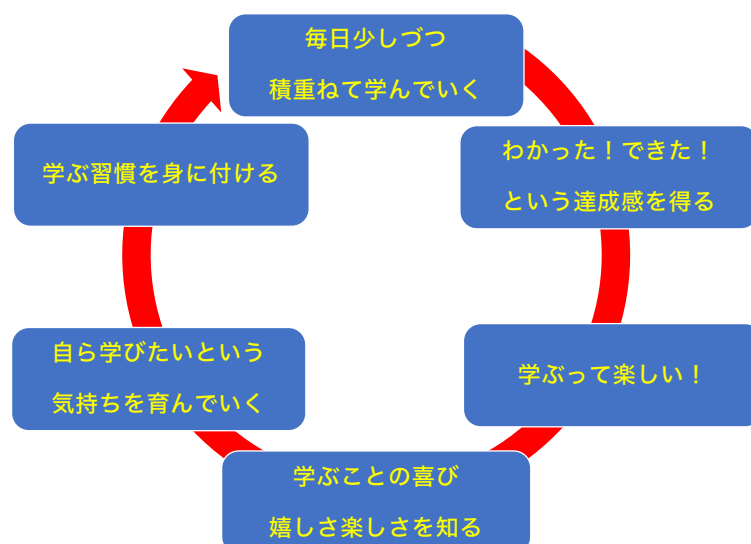
受付	朝のつどい	英語教育活動 5才児ぞう組	質疑 応答 園児 休憩	教育・保育活動 5才児ぞう組	参観に関する discussion	休憩	評価 指導
----	-------	------------------	----------------------	-------------------	----------------------	----	----------

## 教育指導計画

施設関係者 教育参観の 趣旨・目的	木の川認定こども園では、能力開発研究の武蔵野大学准教授浦谷裕樹氏(生体医工学博士)の指導のもと、EQWEL チャイルドアカデミー( <a href="https://www.eqwel.jp">https://www.eqwel.jp</a> )と、しちだ教育研究所( <a href="https://www.shichida.co.jp">https://www.shichida.co.jp</a> )の教材等を用いて「脳を成長を促す幼児教育」と「英語教育」に力を入れ、幼児期に備わる非認知能力を育み、子どもの無限の可能性を引き出す教育を提供することを園の目的とし、通園する児童の基礎学力を培うことで、地域の学力の向上を目指し、幼児期より英語に触れ合い学び続けることで、英語に慣れて、小学校の英語の義務教育の準備をいたします。また、「幼児期の終わりまでに育て欲しい10の姿」に基づき、日々の活動(※P.4)を通じて、優しい心を育み、明るく、個性を伸ばすための保育と幼児教育を大切にしております。
園児の成長への ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことの喜びと楽しさを知り、自ら学びたいという気持ちを育み、学ぶ習慣を身につける</li> <li>・「できた! 覚えた!」という達成感を得る。</li> <li>・「できない、分からない」という思いや、もどかしさや悔しさを経験しても、それを乗り越えて、成長していくことを育む。</li> </ul>

## 学びの過程

木の川認定こども園



教育目標 学ぶことの喜びと楽しさを知り 自ら学びたいという気持ちを育み 学ぶ習慣を身につける

## 英語教育 指導計画

趣旨

幼児期より、外国語である英語を毎日少しずつ（耳にする。input する。使ったり、話したり、歌ったりする）、自然に触れることで、日本語と同じように身に付けて、日常生活で自然に使える言語となるように身に付ける。また英語を使って遊ぶことで、英語を話す（使う）事への苦手意識の軽減を得ることを目的とし、日常生活の中にあたり前にある言語となるよう、英語の時間以外でも英語講師と会話や触れ合う際には、率先して英語を使い、園児から英語についての質問に答えていく。たとえば子どもたちから「これは英語で何と言うの？」と質問されたり、絵本や歌を歌ってなどの要望にも、率先して応じて、子どもたちの英語に対する興味を引き伸ばすように心がける。

午前 9 時 50～10 時 20 分まで 5 才児ぞう組 園児数 16 人 英語講師 西 恵里

時間	実施内容	目的・趣旨
5分	Greeting 挨拶	毎日のルーティーン その日の気持ちを英語で表現する。相手にも聞き返す。その日の日付、天気、曜日を英語で言う。
10分	カードをフラッシュする そのカードを使って質問する	・園児の興味のあるカードを使い、速くフラッシュする事で、集中力を高め、脳を活性化させ、input 力を高める。フラッシュした単語を使い、各園児に質問し答えてもらう。be 動詞や一般動詞を使った質問に対する答え方を身に付ける。 ・動詞カードを使い、What's she doing?などの質問に、She is -ing と答える。現在進行形概念を身に付ける。
10分	TPR Total physical Response 全身反応教授法	赤ちゃんが母国語を身につけていく過程を外国語学習に応用した教授法。動作をしながら、外国語を習得していく。 先生の声かけを聞き、園児が体で声かけに合った動きを表現する。
5分	英語の絵本の 読み聞かせ	英語絵本の読み聞かせを行う。 本日は英語の絵本 「Open the window」  の読み聞かせを行う。日々の英語教育活動の中で、英語絵本の読み聞かせは、基礎的な英語表現を学び、読み聞かせを通して、音素の発音、弱形、音声変化、強勢、リズム、イントネーションなどの英語の音声を体得するのに優れており、リーディング能力の基礎となる音読力を高めるのに効果的であると考えられている。

幼児教育 指導計画 5才児ぞう組 園児数16人 担任 窪 淳子

趣旨	園内で絵本の朗読、暗唱、フラッシュカードやパズルなどを利用した、充実した幼児教育を行うことは、多くの言葉に触れることになり、語彙力が増え、表現力が豊かになると考えている。園児に無理なく学び、楽しく学んでいくこと環境を提供します。また、フラッシュカードを含めた幼児期の暗唱は、記憶をする脳の回路をより太く強くすることを目的とし、物事をすばやく覚える習慣を育みます。	
午前9時30～9時50分	朝のつどい	
午前10時25～10時55分	ヨガ・リトミック	
午前10時55～11時20分	フラッシュカード・百玉そろばん	
時間	実施内容	目的・趣旨
20分	朝のつどい 「おひさまキラキラ」 「ひとりじゃないさ」	園児全員の前に出て、発言する力を養い、季節の歌や親しみのある歌を楽しみながら歌う。
10分	ヨガ 「手回しオルゴール」 「くるりんぱ」 「わたしは木」	簡単なポーズや呼吸法を通じて、生活の基盤となるバランス感覚や、子どもの成長を助ける柔軟性を養う。
10分	リトミック 「金魚」「かめ」 「子馬」「汽車」	音楽のリズムに合わせて、親しみのある動物に模して遣ったり、跳んだり、転がったり、走ったりするうちに子どもの体の骨や筋肉の発達を促す。
5分	歴史人物カード（世界）	・絵や記号、監事の書いてあるカードをリズムに合わせてテンポよく見せることで、脳が鍛えられ、見て記憶するという能力が身につく。
5分	日本地理カード	・世界の歴史上で著名な人物に触れ、知識を増やし、歴史に対する興味を育む。
5分	反対語カード	・日常生活で使う反対語の言葉と意味を楽しく学ぶ。その言葉の意味や使い方をより深く知って言葉の発達を促す。
5分	かけざんカード (3の段～8の段)	音源のリズムに合わせて、楽しくかけ算を学ぶ。100玉そろばんを使用して数の概念を身に付け、小学校入学までに九九を無理なく覚える。
5分	百玉そろばん「逆唱」 「2とび」「5とび」 「10の段階・合成」	日常生活で意識して行うことが難しい「並べる」「分ける」といった動作を、自分の指で玉を動かして、視覚・聴覚への刺激を与え、脳の発達を促す。

「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の学習に  
繋がる遊びや活動とねらい

主な活動	ねらい
お散歩	様々な季節に園外に出ることで、五感で季節を感じたり発見をする。約束事や交通ルールを身につける。
カレンダー制作	1年を通して翌月のカレンダー製作をする。日付けを書くことで数字を覚えたり書き方を覚え、記念日や行事等を意識して過ごす。毎月その月に合った折り紙製作を通して、折り方の手順を守ったり指先の器用さや集中力を養う。また、形の変化に興味を持ち、図形への理解を深める。
夏野菜を育てる	買い物体験し、自分達で選んだ苗を育てる。野菜の生育を観察したり、絵に描くことで野菜や食べ物への興味関心を持つ。育てたものを食べたりクッキングをすることで食育に繋げる。水やり当番など、責任を持ってやり遂げる。
泥んこ遊び	手や裸足で泥の感触を味わったり、解放感を味わう。感覚、想像力、友達とのコミュニケーションなど社会性を育てる。場所によって土の違いに気付いたり、水を混ぜる配分によって土の緩さや感触が変わることを体験する。砂場で山を作りトンネルを作ったり、水を流して川を作ることで、扇状地や三角州ができる不思議さに気付いたり発見したりする。
廃材遊び	様々な素材に触れ、素材の特性を感じ、イメージを持って工夫したり試行錯誤しながら作り上げる力をつける。また、形や大きさを考えながら組み立てることで空間認知力を養う。
どんぐり貯金	秋ならではの自然に触れ、木の種類によって大きさや形の違いに気付く。どんぐりの数を数えることで、数に興味や関心を持ち数がわかる楽しさを知る。数唱したり、数の概念を育む。
お店屋さんごっこ	品物に適した素材を選んだり、商品の数を考えながら、友達と話し合い協力して作り上げる体験をする。自分達で値段を決めたり、小さい子ども達がわかりやすいようにレイアウトしたり、異年齢の存在を感じながら一定期間継続して活動に取り組む。売り手と買い手両方を体験しながらやりとりを楽しみ、社会生活に繋げていく。